



臨床医学研究のお知らせ

聖路加国際病院では、将来の医療を向上させるため、臨床医学研究を行っています。つきましてはご理解の上、ご協力をお願い申し上げます。なお、個人情報厳重に管理させていただきます。

研究計画や研究方法に関する資料をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体の目的や進行に支障となる事項以外はお知らせすることができます。ご質問がありましたら下記連絡先にお問い合わせください。

この調査では、ご協力を拒否することも自由です。もし、研究へのデータ・試料の利用を望まない場合は、下記の連絡先までご連絡いただくか、医療スタッフへ申し出てください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】

住所：〒104-0044 東京都中央区明石町 9-1

電話：03-3541-5151

担当者の所属・氏名 小児科 梅原 直

【研究責任者】

聖路加国際病院 小児科 梅原 直

小児がん経験者の方々の

成人期の呼吸機能について

1.研究の対象

小児がんをご経験された方のうち、以下の 1)～3)のすべてを満たす方

- 1) 小児がんの診断後10年以上を経過し過去5年間以上を無治療で寛解を継続している方。さらに、小児がんの診断後10年以上経過した時点で呼吸機能検査を当法人で1回以上行なっている方
- 2) 聖路加国際病院小児科において主に診断と治療を受けた、または治療内容が完全に把握され聖路加国際病院小児科で治療終了後5年以上の外来フォローアップを受けた小児がん経験者の方
- 3) 2020年7月時点で18歳以上の方

2.研究の目的・方法

近年、日本における小児がん患者の長期生存率が著しく改善いたしました。欧米からの報告では小児がん経験者の方は成人期に呼吸機能が低下していることが言われております。本邦では小児がん経験者全般の呼吸機能の長期的な影響、特に成人期について述べられた報告がないのが現状です。

造血幹細胞移植を受けた小児がん経験者の方の呼吸機能は、初期は無症状で検査値の低下のみですが、息切れなどの症状が表れた時には病気が進行しており生活の質が低下すると言われておりますので、定期的に呼吸機能検査を行い早期発見が望ましいと言われております。しかし、造血幹細胞移植を受けていない小児がん経験者の方が定期的に呼吸機能検査を受けたほうが良いのかについてはわかっておりません。

さらに、呼吸器系は成長とともに発達し思春期頃に成熟しますが、呼吸器系が発達する時期に呼吸器疾患に罹患すると成人期になっても呼吸機能が低下したままであることが明らかになってきており、小児がん経験者の方も成人期に呼吸機能が低下している症例が少なくないため、小児期のがんの罹患や化学療法をはじめとする治療が成人期の呼吸器系へおよびす影響が指摘されていますが本邦の現状は明らかになっていません。

今回の研究は、日本の小児がん経験者の方の成人期における呼吸機能を調べることおよび呼吸機能へ影響をおよぼす因子を明らかにすることを目的としています。

呼吸機能悪化のリスク因子が同定されれば小児がんを治療する時点でリスクがある方には呼吸理学療法や呼吸器系の発達を促すことで成人期の呼吸機能の低下を防止または軽減できる可能性があります。

なお、この調査では通常の保険診療以外の医療行為はなく、診療録（カルテ）に記載される内容についての調査のみとなります。

調査期間は研究倫理審査委員会承認後～2021年3月31日までの予定です。

3.研究に用いる試料・情報の種類

主なデータ項目は以下となります。

《情報》カルテ番号、性別、年齢、小児がんの種別、がんの治療(化学療法、放射線療法、造血幹細胞移植 含む)内容既往症、BMI、喫煙歴、呼吸機能検査値など

《試料》特になし